事例No.	2406
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	長崎県五島市

事例区分	DX

タグ	・AI ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	事業効率化・産業の創出

事例内容・タイトル

鳥獣被害対策ＩＣＴイノベーション事業

出典

総務省ホームページ

鳥獣被害対策ICTイノベーション事業（長崎県五島市）

【事業背景】

R4.7時点

○シカ・イノシシが増加し、地域住民が結成した5つの捕獲隊による捕獲が本業の傍らで実施されている。
○限られた時間内での捕獲活動となるため、捕獲の効率化が課題。

【事業実施主体】五島市
【R3交付金活用額】16,233千円

【取組内容】

【令和3年度実施した事業】

○今まで携帯回線を活用した捕獲技術を導入してきたが、LPWA通信を利用して携帯回線の届かない山間部でも情報収集できる仕組み（※）へと進化させた。
※山奥でシカやイノシシがわなにかかると、捕獲者のスマホに通知が届く仕組み
○有害鳥獣の目撃や捕獲情報をクラウドに集積しデータ活用することで、リアルタイムな有害鳥獣の出現予報を発出する鳥獣被害予防アプリを開発・利用促進 。

【概念図】



【アプリ概要】



【成果（令和3年度）】

○山間部の携帯回線が届かない地域での罠でも作動状況をスマートフォンで確認可能となり、捕獲の効率化、見回りの省力化を実現。
○目撃情報等を基に警報発出する有害鳥獣の出没予報アプリにより、衝突事故を未然に予防可能になった。延べ約2,900名の市民がアプリを活用。
○解体加工する事業者は、それまで不定期に運び込まれていた屠体について、事前に罠作動情報を得ることで、当日の作業計画を立てやすくなった。

【令和4年度実施予定の取組】

○引き続き、被害予防アプリの市民への普及を推進。
○捕獲した屠体を有効活用し、新たな産業を創出。